

桜中だより

長崎市立
桜馬場中学校
校長 大塚 潤

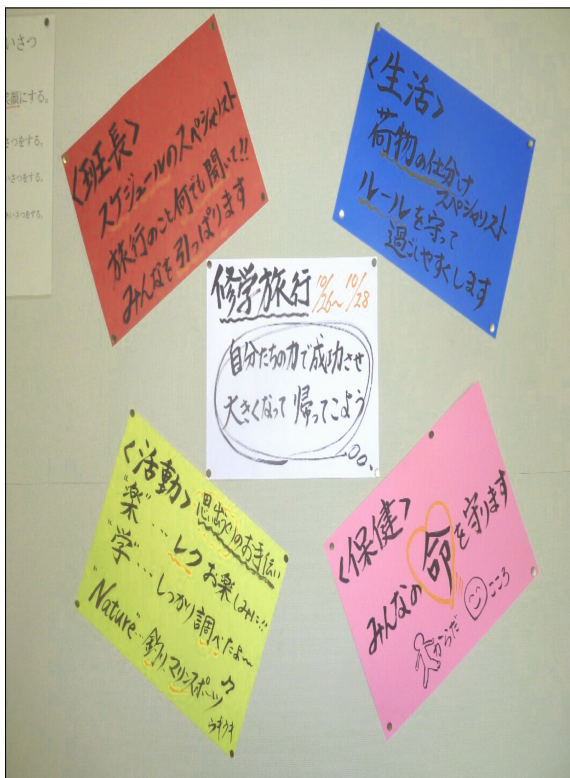
旅にかけろ思

誰もが楽しむ修学旅行に

いよいよ、26日(水)～28日(金)の2泊3日、2年生は吉岐「ハウステンボス」へ修学旅行に出かけます。

「特定の人だけが楽しめる行事ではなく、みんなで少しずつ譲り合って、およそ90%の満足感にす

てきて、1つでも2つでもたくさん楽しんで『思ひ出』を残したいものです。大きな行事を迎えるとき、大切にしたいのは、「特定の人が楽しめる行事ではなく、みんなで少しずつ譲り合って、およそ90%の満足感にする」とだと思えます。そのためには、自分の「わがまま」を少しずつ我慢しなければなりません。今年の修学旅行のテーマは、『楽学NATURE 修学旅行』ルールを守って礼儀正しく生活する。この素敵なテーマをベ



生徒玄関の掲示で～す!

次に、修学旅行ですから、まずは誰もが思いっきり楽しんでほしいと思います。そして、普段の学校生活ではなかなか体験できないたくさんのおもしろい「思ひ出」を残したいです。この「学び」は、地理や歴史の関する学習はもちろん、日常生活でのマナー、観光地でのマナー、友達と寝食を共にする中で、互いをより深く理解し合うことなど、修学旅行の期間全てが「新しい学び」です。

実行委員の言葉

僕は、この修学旅行で、身につけたいことが2つあります。

1つ目は、臨機応変に行動することです。親がいない中で、子どもだけで行動する修学旅行。何があっても対応できるようにしたいです。

2つ目は、とにかく楽しむことです。中学校生活最初で最後の修学旅行、みんなが楽しめて、思い出がつくれるような楽しい修学旅行にしたいです。

2年2組 濱田 隼市

「楽学 NATURE 修学旅行」これが私達の修学旅行のテーマです。私は、楽しく学び、自然を満喫できる修学旅行にしたいです。

「楽」ハウステンボスや、マリンスポーツなど、全力で楽しんで、仲間との絆やかけがえのない時間を大切にしたいです。

「学」一支国博物館やガイドさんの話をよく聞き、価値のある充実した修学旅行にしたいです。

「NATURE」釣り体験や、猿石、花火など、自然や文化と触れ合い、自然や地域の方の素晴らしいさを感じて、心を豊かにしたいです。

2年生は、修学旅行で、学校の顔になります。一人一人が責任を持ち、胸を張って成長したいという修学旅行にしたいです。そして、「大きく帰って帰ってきます。」

実行委員長
2年4組 平戸 琳子

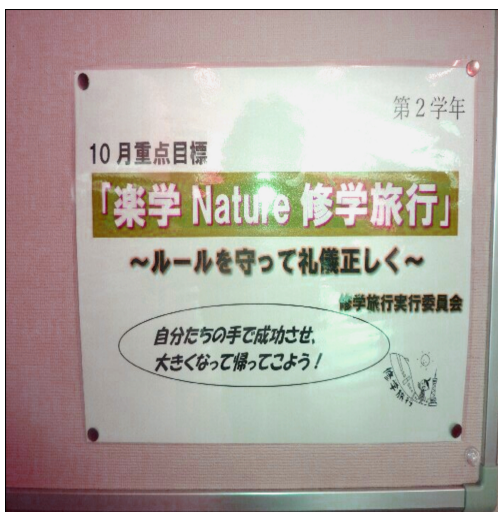
「口ナ禍から始まった中学校生活では、思ったことができなかったり、今まであったことができなかったりして、2年生最大のイベント修学旅行に行けるかとても心配でした。ですが、10月16日から2泊3日で行けると知

り、行けるようにいろいろ配慮してくださった先生方や保護者の方々に感謝して最高に楽しい修学旅行にしたいです。

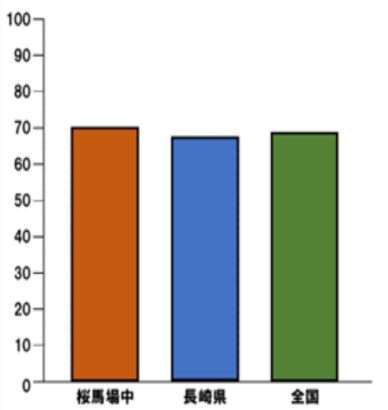
2年1組 谷角 賢史郎

僕は、この修学旅行で、様々な人に感謝をして臨みたいと思っています。なぜなら、今の「口ナ禍」で、修学旅行を実現できるのは、先生方や施設の方々、保護者の方々のおかげからです。だから、僕たちへの期待を裏切らないためにも、感謝の気持ちを忘れず、みんなと協力し、修学旅行という大切な行事を成功させたいと思います。

2年3組 福本 涼太



全国学力調査 国語(3年生)



【3年国語 現状・課題】
県、全国の平均をやや上回っている

課題としてきた漢字・語句についての知識は平均を上回っているが、表現技法の知識やグラフなどの資料の読み取り、文章表現の文末や語尾を目的に応じて使うことをやや苦手としている。

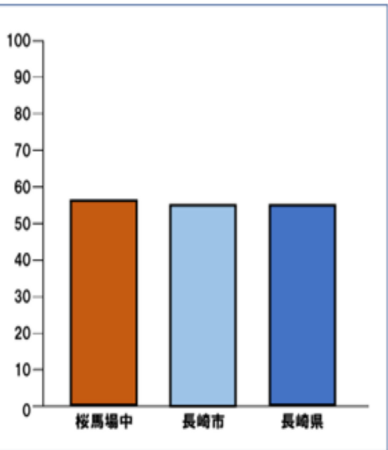
【伸ばしていきたい力】

- (1)「どのような表現技法が使われているか」とその効果を理解し文章読解に活かす力。
- (2)資料やグラフを読み取り、自分なりの解釈を叙述する力。

【そのための具体的取組】

- (1)韻文の指導の際には、表現技法について復習をし、その効果を記述することで振り返りをする。
- (2)資料やグラフの読解を含む教材を授業で取り入れ、読解や文章化の反復練習を行う。

長崎県学力調査 英語(3年生)



【3年英語 現状・課題】

県、全国の平均をやや上回っている。

「聞くこと」や「読むこと」に関する力は、県の平均を上回っているが、「書く力」が不足している。内容を正しく読み取り、自分の考えについて、根拠を示して表現することができていない。

【伸ばしていきたい力】

- (1) 表現活動に必要な語彙力
- (2) 身につけた知識や技能をアウトプットできる力
- (3) 与えられた課題について、自分の考えをまとめる力

【そのための具体的取組】

- (1) 弾丸インプットやスモールトーク、スピーキングコンテストなどを通して、語彙力の育成と充実を図る。
- (2) 「目的・場面・状況」を意識させ、自分なりの考えを日本語や英語で表現する機会を設ける。
- (3) ねらいに即した『書く活動』を計画的に取り入れる。(まとまりのある英文を書く問題を出題し、根拠を示して考えや理由を表現できるか確認する。)

親子で考えるスマホ利用の10箇条

このスマホは、お父さんお母さんのものです。あなたのものではありません。次の10箇条の約束を守るという条件で、あなたに貸します。

- 第1条 午後9時になったら親に返します。自分の部屋には置けません。
- 第2条 顔を合わせて、直接その人に言えない言葉や文章は、書き込みません。
- 第3条 親に見せられない写真や動画は送りません。
- 第4条 しなければならないこと(学習・習い事・家の手伝いなど)をしないで使うことはできません。
- 第5条 親が必要だなと感じたら、いつでも中身を確認します。
- 第6条 勝手にパスワードをかけたり、変えたりしてはいけません。
- 第7条 使用可能な時間帯であっても、使用時間が長すぎたり、使用場面が不適切だったりしたら、使用を制限します。
- 第8条 直接顔を合わせて会ったことのない人の言葉は、使用してはいけません。困ったら必ず親が学校に相談します。
- 第9条 課金はどのような理由があってもしてはいけません。
- 第10条 休日は、スマホ、ゲーム、テレビ、PCなどのメディア利用時間より、紙の本の読書、運動、直接人と会っての会話等の時間が長くなるように心がけます。

この10箇条は、毎月一度確認します。10箇条が守られていなかったり、何らかの問題が起こったりしたら一度没収します。話し合っ問題が解決したらまた貸します。

学力向上に対する本校の課題や取組について紹介を連載しています。ただ、現代の子ども達の生活において、最大の懸念は「メディア利用時間の増加」です。教育の中で、一人一台PCが配備されたように、ICT機器の活用はこれからの世界を生きる必要アイテムには間違いありません。しかしそのこと、余暇や友達との交流で自由に使うメディア利用とは区

別しなければなりません。メディア利用時間の長さや学力の相関関係は確実にあるといわれます。そのような危機感をもっていたところ、9月29日付の長崎新聞に別紙のような記事を見つけました。この記事の内容をヒントに、「スマホの10箇条」を諏訪小・伊良林小・桜馬場中の3校の校長で共有してみました。

「ただできればと思います。時間の設定や文言などは各ご家庭でアレンジしていかと思います。『スマホ』に限らず、ゲーム等他のメディア類も同様に考えてほしいです。要は、きちんと親と子どもの両者が納得の上で『我が家のルール』をつくることです。特に重要なのは、『スマホは親の所有物であり、それを親の許可の上で子どもに貸し出しているのだ』という前提です。責任も権利も親が持っているという点に自信を持っていただきたいのです。」

スマホ利用の10箇条